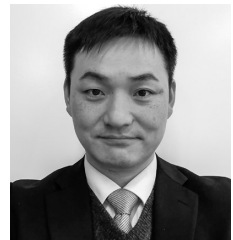


私の工夫

1人1台端末つて
本当に必要なの？

赤磐市立吉井中学校

教諭 吾妻 喬司



1 はじめに

『ICTを毎日使っている』の回答率を100%にしよう！、
「筆記用具と同じように使わせよう！」などの様々なキャッチフレーズを持ち出しては、GIGAスクール構想で導入された1人1台端末の授業活用を進めるようにと、我々教師のもとには毎日のように指示がやってきています。以前のチョーク&トークの授業でも子どもたちは良い反応を見せ、楽しく授業が展開できるのに、本当にICTを活用した授業は必要なのでしょうか？

私は教師歴17年で、PCの扱いや知識に長けているわけではあり
ません。コロナ禍のGIGAスクール構想で導入された1人1台端末の管理をお願いされたことがきっかけで、情報担当や研修担当をすることになりました。そんな私がICTの利便性を学校全体に理解してもらったり、チョーク&トークの素晴らしさを説き伏せたりすることはできないため、3つの工夫を行いました。

2 私の工夫

工夫① 知識・経験

まずは私自身がICT活用の知識と経験を得るため、様々なICT活用の研修に参加し、沢山のスペシャリストの方々のお話を聞き

共同編集



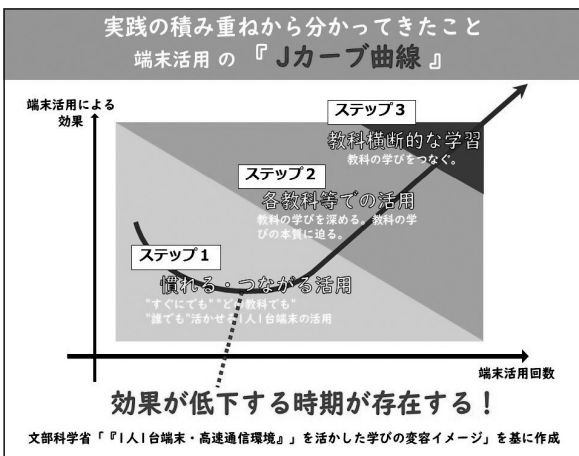
- 【メリット】
- グループ活動との相性◎
 - 協働的な学習へ発展できる
 - 発表や共有の時間の短縮
 - 1つのデータで管理が可能
 - 協力や相談が自然とできる

- 【デメリット】
- タイムラグが生じやすい
 - 編集のマナーやルールの習得が必要

共同編集のメリット・デメリット

ました。そして、それらの研修で得た『共同編集』の知識を早速活用して自らの経験へと昇華させることにしました。なお、『共同編集』とは、クラウド上の一つのファイルを複数人で同時に編集することで、協働的な学びや情報共有の要となり得るICTスキルのことです。そして実際に、『共同編集』を行ってみると、いくつもの壁が立ちはだかりました。1人1台端末にログインできな

い、端末を忘れる、子どもたちがクラウド上のデータにたどり着けない、文字入力や編集スキルが足りない、タイムラグがひどい、クラスメイトの編集を邪魔するなど、ありとあらゆるトラブルが発生し、『共同編集』の経験を得るところか、トラブルの対処に時間を割かれ授業が成立しないこともありました。いわゆる『Jカーブ曲線』に陥ってしまったのです。ここで言う『Jカーブ曲線』とは、県教委が研修の中で指摘している端末活用のステップ1のことを指



県教委の研修スライド

しており、簡単に言うと、「慣れないものを使い始めると、最初は効率が落ちるし、ICT活用では特に激しい！」という現象のことです。日常生活で言うと、あの煩わしいスマホの初期設定に近いでしょうか？

工夫② ～環境・指導・実践～

スマホの煩わしい初期設定はしたくないけれども、新しいスマホは欲しいと思うのが人の性です。つまり、教師に必要なのは『トラブルの起こらないICT活用』となりそうです。そのための環境・指導面での工夫は、最後の二次元コードのリンク先にまとめましたので割愛します。天才であれ、凡人であれ、何はともあれ、実践に勝る学びはありません。

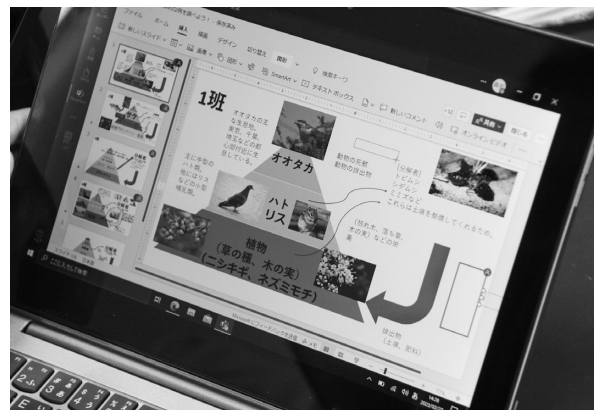
工夫③ ～研修・トレーニング～

まず、実践のためにICTトランスの要因を洗い出し、教師の側面と子どもの側面の両面から、トランス解消のための教職員研修と

子どもの計画的なトレーニングを実践しました。教職員研修は全員研修とミニ研修を組み合わせ、毎月の校内研修では必ず端末による『共同編集』やFormsアンケートを行い、すべての教師がICTについて学ぶ機会を確保しました。そして、子どもたちはモジュール授業（放課後学習）の時間を活用して、タイピング練習や基本操作だけでなく、特に中1ギャップをなくすため、1年生は年度当初に集中して授業に必要なICTスキルのトレーニングを行っています。



共同編集の様子



共同編集をしている画面

3 おわりに

これまでの私自身の経験から、冒頭の問いについて考えます。岡山県のICT環境は全国的に見ても高水準であり、私が他県で勤務していたときには自前のプロジェクトと模造紙を持って授業に行っていたことを考えると、間違いなく最高のICT環境だと断言できます。校務支援ソフトが全校に導入されて、学期末業務は格段に効率化され、もう手書きと判子

の通知表には決して戻れないと全教師が思っています。そんな我々のゆとりの時間を得ることが当たり前になっっている現在があるにもかかわらず、その得た時間で子どもにもICTの恩恵を与えてあげようと努力をしない選択肢を私は持ち合わせていません。令和発行の1円玉が3000円で取引されるキャッシュレス時代、国民にナンバーが振られ、高校入試の出願がスマホ入力とコンビニ印刷が当たり前になった時代が到来しました。そんな時代に生きる教師として、岡山県の最高のICT環境を生かしたSTAGE3の授業実践を、学期に一度はチャレンジしたいものです。

環境・指導面での工夫の具体

ICTによる共同編集で、クラス全員をつなげる授業の実践とその評価

